

# 武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行

見る／学ぶ／訪ねる／

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10

【電話】042-323-4103 [FAX] 042-300-0091

【E-mail】museum@city.kokubunji.tokyo.jp

【HPアドレス】

http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2024.2  
第53号



## 国指定史跡武蔵国分寺跡保存整備事業—南門地区の整備—

令和2年度に武蔵国分僧寺の伽藍<sup>がらん</sup>中枢地区（金堂・講堂・中門・鐘楼等）<sup>しょうろう</sup>の整備が完了し、昨年度より対象地域を中枢部周辺地域（南門地区、北方・推定中院地区、塔地区）に広げました。整備事業は、武蔵国分寺の建物や附属施設が最も充実していた平安時代前期に焦点をあてて計画しています。今年度は、僧寺の玄関口にあたる南門地区西側の工事を行いました。（図1）

### 【南門地区整備計画の主要目標】

- ①南門跡と参道跡の整備による南北の伽藍中軸線の明確化
- ②伽藍地<sup>がらんちなんべんくかくみぞ</sup>南辺区画溝の整備による史跡の範囲・広がり<sup>の</sup>の明示
- ③武蔵国分寺の正面入り口である南側エントランス空間の整備
- ④緑地を活かしたレクリエーション、環境保全、景観、防災機能等の向上

本工事地区の重要な遺構として、武蔵国分寺の主要建物がある伽藍地と寺院地を区画した「伽藍地区画溝」があります。この伽藍地区画溝を一部立体表示し（写真1）、解説板を設置しました。植栽は、武蔵国分寺が栄えていたころの空間を演出するため、『万葉集』に記載されているガクアジサイ・ウメ・イロハモミジなどの樹種を選んでいきます。

地区内は芝生を植え、四阿<sup>あずまや</sup>（写真2）やベンチを置き、訪れるみなさんの憩いの場となるように設計しました。芝生を植えたエリアについては、芝の根が定着する令和6年8月頃まで立ち入りを制限し、街灯も消灯いたします。

今年度の工事は2月で終了しますが、南門地区全体の整備完了は令和8年3月を予定しています。完成すると図2のようなイメージの公園になります。



図1 南門地区整備工事完成予定図



図2 南門地区のエントランスパス



写真1 立体表示した伽藍地区画溝



写真2 四阿

## 南門地区の調査成果

### ●南門について

武蔵国分僧寺は、金堂・講堂などの主要建物のある中枢部と七重塔などを含む伽藍地、さらに外側の付属施設を含む寺院地から構成されています。南門は、伽藍地の正面入口に設けられた門で、金堂・講堂・中門の中心を通る中軸線上に位置しています。

大正時代に東京府が行った武蔵国分寺跡の調査によると、金堂跡から南へ 216m の離れた付近で瓦が堆積した箇所を確認し、そこを「南大門」として推定しました（図 3）。この地点は明治のはじめには、礎石が 4～5 個現存する「薬師大門」と呼ばれた場所でしたが、その後礎石は持ち去られたようで、調査の時点では一つも残っていなかったことが報告されています（東京府 1923）（図 3、写真 3）。

その後、昭和 33 年に本格的な発掘調査が日本考古学協会仏教遺跡調査特別委員会により行われ、南門の調査区の 1 地点から礎石が据え付けられていたと思われる大小 4 つの掘り方が見つかり、「南門址（跡）」と想定されました。掘り方の一つからは、根締めと思われる石、瓦などが詰められた状態でみつかり、礎石据付掘方（※1）と想定されました。

市教育委員会は、先の調査結果を再確認する目的で平成 20 年度に武蔵国分寺跡第 642 次調査として、中門から南に約 65m 地点にある「南門址（跡）」の再調査を行



図 3 遺址瓦分布図（一部加筆）  
「東京府史蹟勝地調査報告書 第 1 冊」

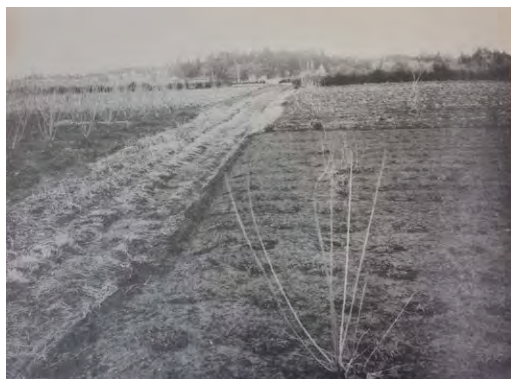


写真 3 薬師大門  
「東京府史蹟勝地調査報告書 第 1 冊」

いました。礎石据付掘方と想定される痕跡の一部を断割りした結果、埋め土が版築状（※2）に積まれており、これらの掘り方は礎石下部の壺掘地業（※3）と考えられます。南側の壺掘地業が北側に比べ規模が大きいため、南側の 2 本が親柱で、背後にそれぞれ控柱を伴う構造と想定されます。建物の規模は、桁行 1 間 × 梁行 1 間、東西の間口は約 4.5m、親柱と控柱の柱間は約 2.25m でした。同調査の出土遺物は、文字瓦を含む瓦が数点、永楽通寶（1408 年初鑄）1 点が出土しています。

### ●伽藍地区画溝について

武蔵国分僧寺の伽藍地と寺院地は素掘りの溝で区切られており、南門のすぐ北側には、伽藍地の内外を区切る伽藍地区画溝の南辺がみつっています。昭和 33 年度の調査で区画溝の覆土はほぼ完掘されているため詳細は不明ですが、平成 20 年度の調査では、掘り込みの形状から数度の掘り直しがあったことが想定されています。また、区画溝の南北には多数の小柱穴が存在し、これらは溝に架けられた木橋の痕跡（橋脚遺構）の可能性があります（図 4）。区画溝は、上面幅が南門北側は 2.2m と狭い一方、東西両側では 3.3～3.5m と広くなっており、土橋状に掘り残した時期と溝を掘って木橋を架けた時期があったものと考えられています。（酒井 美帆）

#### 【参考文献】

- ・東京府『東京府史蹟勝地調査報告書 第 1 冊』1923 年
- ・日本考古学協会『武蔵国分寺跡遺物整理報告書一昭和 31・33 年度一』1985 年
- ・国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会『国指定史跡武蔵国分僧寺跡発掘調査報告書 I』2016 年、『国指定史跡武蔵国分僧寺跡発掘調査報告書 II』2018 年
- ・国分寺市教育委員会『史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）第一期整備〔中枢部周辺地区〕基本設計報告書』2020 年
- ・※ 1：礎石据付掘方：礎石を据え付けるために掘られた穴
- ・※ 2：版築：地面を掘り込み、底部から異なる土を層状に交互に突き固める地盤工事
- ・※ 3：壺掘地業：地面を部分的（礎石直下など）に掘り込み、底部から土を突き固め版築すること。

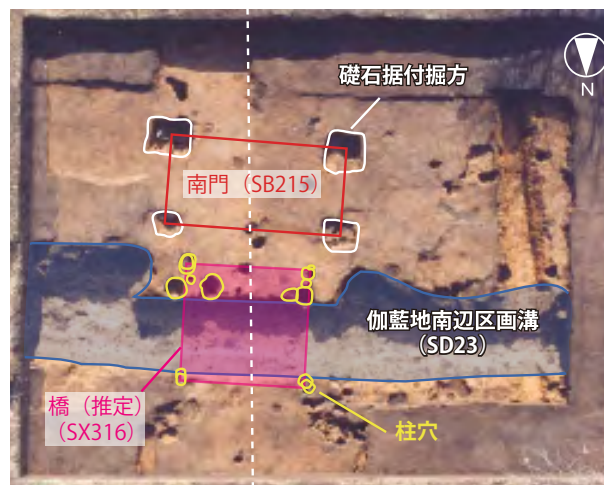


図 4 南門跡平面図（下が北）  
武蔵国分寺跡第 642 次調査（平成 20 年）

## 「昔のくらしと道具」について

小学校3年生の社会科に「昔のくらしと道具」というテーマがあり、身近な地域の昔の道具について学びます。各地の博物館施設でも、子ども達が学習する時期に合わせて昔の道具を紹介する企画展を開催しています。

本号でも、収蔵資料から「暖房器具」の移り変わりを紹介します。まだ各家庭に電気やガスが通っていない時代、冬の寒い季節を人々はどのように暮らしていたのでしょうか。

江戸時代以来、農家では<sup>いろり</sup>囲炉裏で、火を焚いて煮炊きしながら家族で暖をとりました。農家の屋根が茅葺きからトタンに変わり、ガラス窓によって締め切った家屋の構造になると、煙の出ない炭を使う火鉢や炬燵が主流になります。火鉢は手あぶりや部屋を暖めるために使いますが、周りに木枠をつけ、その上に布団をかぶせて炬燵としても利用しました。農家では、かつて<sup>いろり</sup>囲炉裏があった場所を掘り炬燵に転用しますが、アパートのような畳敷きや板敷きの洋間を主体とする建築構造の家屋では、部屋でテーブル状に組み立てる炬燵や据え置きストーブが使われました。

戦後になり灯油や電気などの燃料が次第に導入されると、暖房器具の燃料もそれらに移行していきます。

市内では、電気は大正3年、ガスは昭和25年頃から徐々に使われるようになりました。

現在では、家屋の構造や建材の性能が向上したことにより室内の気密性が高まり、部屋全体を暖めるエアコンや床暖房が主流になっています。写真の資料は炬燵（右下）を除き、国分寺市民俗資料室（国分寺市本多5丁目）に保管・展示しています。（酒井 美帆）

### 【参考文献】

・国分寺市教育委員会『国分寺市の今昔』2015年

### 【国分寺市民俗資料室】

見学は事前申込制です。見学希望日の3日前までに電話にて。申込先：042-323-4103（武蔵国分寺跡資料館）



あんか  
行火

手足を温められるよう、外側に布を張った携帯用のカイロで、中に豆炭をいれます。



ネコ炬燵

瓦質製で、中に炭火を入れて上から布団をかけて炬燵として使います。明治時代から使用されました。



使用時



木枠を開けた状態

### 六角型行火

六角型に組んだ木枠の中に炭火を入れる鉄製の器が据えてあります。器は傾けてひっくり返って炭火がこぼれないよう、回転式になっています。



※長屋門にて展示中（令和6年2月時点）

### 炬燵

上に天板と布団をかけて使います。手前の猫の透かし部分を開けて炭の出し入れをします。

令和5年度 市外文化財めぐり開催報告

令和5年11月26日(日)に「市外文化財めぐり」を開催し、市民27名が参加しました。今年度は古代武蔵国に隣接する相模国の歴史を学ぶため、神奈川県海老名市と綾瀬市を訪れました。弥生時代から奈良時代までを中心に、原始・古代の文化に思いを馳せながら巡りました。

当日はあいにくの天気となり、屋外は寒い中での見学でしたが、両市の職員やガイド協会ボランティアの丁寧な説明に、参加者の方も熱心に耳を傾けていました。



史跡相模国分寺跡(海老名市)

【見学コース】

史跡相模国分寺跡→海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」→史跡秋葉山古墳群→史跡神崎遺跡(神崎遺跡公園・神崎遺跡資料館)



神崎遺跡資料館(綾瀬市)

『古代道路を掘る』改訂版発行のお知らせ

令和5年11月に、東山道武蔵路の調査成果をまとめた書籍『古代道路を掘る』の改訂版(初版平成29年3月)を刊行しました。今回の改訂では、史跡の追加指定範囲等を補足しています。書籍は郵送でも販売しています。詳しくは市HP武蔵国分寺跡資料館のページから「文化財関連図書のご案内」をご確認ください。

[ページ番号: 1004239]



『古代道路を掘る 一東山道武蔵路の調査成果と保存活用一』表紙 700円(税込)

来館者数

2009年10月18日～2024年1月末日

来館者数累計 188,134名

多くのご来館ありがとうございました

【10月～1月の学校見学】

	学校	人数
小学生	6	398
中学生	3	39
大学生	2	23

【来園校】市立三小(6年生)、府中市立武蔵台小学校(3年生)、市立九小(6年生)、市立一小(6年生)、市立七小(6年生)、市立四小(2年生)、羽村市立羽村第一中学校、府中市立第一中学校、府中市立第二中学校、法政大学、大正大学

月	来館者数	開館日数
10	2,030	26
11	2,207	26
12	952	24
1	585	24
計	5,774	100

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



※駐車場はありません

交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車/徒歩約20分 ©JR国分寺駅下車/徒歩約15分

【バス】国分寺駅下車

- 国分寺駅西より国分寺市地域バス『ぶんバス』万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分
  - 国分寺駅南口より「京王バス」系統番号(寺83)・(寺85)乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分
- 西国分寺駅下車
- 西国分寺駅東より国分寺市地域バス『ぶんバス』万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分
  - または、日吉町ルート「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

※新型コロナウイルス感染症対策のため、引き続き手指の消毒にご協力ください。マスクの着用は利用者個人の判断としています。

■開館時間

午前9時～午後5時(入園は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日) 年末年始(12月29日から1月3日まで) ※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売) 一般……………100円(年間パスポート1,000円) 中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき[事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。]
- 身体障害者等及びその介護者が入園するとき[発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。]
- その他教育長が特別の理由があると認めるとき[事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。] ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡 資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



ホームページ 二次元バーコード